

各発掘調査のおもな成果と内容



荻窪倉兼Ⅲ遺跡 調査区全景（写真左が北）



丁寧に作られた大型の竈穴住居跡

荻窪町でおこなった荻窪倉兼Ⅲ遺跡の調査では、古墳時代から平安時代の竈穴住居跡24軒、掘立柱建物跡8棟、稲藁などの発見がありました。特に、1辺が8mもある奈良時代の大型住居跡（写真右上）は、とても丁寧に作られており、他の住居跡とは明らかに違います。

また、この住居跡からは、「大」と墨で書かれた土器（墨書土器）が複数見つかりました。とても貴重なもので、ここには豪族の住居があったのかもしれない。



住居内で出土した土器



元総社北小学校遺跡（写真上が南）

元総社北小学校でおこなった発掘調査では、弥生時代、古墳時代、平安時代など様々な時代の竈穴住居跡がいくつも重なって見つかりました。はるか遠い昔から、人々のくらしのあったことが分かります。

今回の調査で、牛池川沿いに広がる集落の様子が、少しずつ分かってきました。また、緑色の稲藁を用いて作った陶器など、貴重な遺物も見つかりました。



上細井中西部遺跡群No.3（赤城山を望む）

上細井中西部地区の土地改良事業に伴う発掘調査は、今年で3年目になります。これまでの調査から、赤城山南麓には縄文時代から広く集落が営まれていることが分かりました。調査では、縄文時代の落とし穴や奈良・平安時代の集落跡が見つかりました。その中には、鍛冶工房（金属製品の製作所）もありました。出土品では、役人が身に付ける帯金具や墨で文字（「牛」）の書かれた土器（墨書土器）などが目を引きます。



直径3m 深さ3mの穴！



穴が埋まった様子が見えます



石組みのカマド

上泉町でおこなった上泉下中峯遺跡の調査では、直径、深さともに約3mもある大きな穴（写真左）が見つかりました。底の方には「段」が付く変わった形をしています。「水室」（水を保存する施設）と考える説もありますが、はっきりと断定することはできません。使用目的は何なのか、とても興味がわきます。また、石を上手に組み上げたカマド（現代のコンロ：写真右）も見つかりました。



古墳西側の真石



古墳北側の真石

市立第六中学校の東にある愛宕山古墳は、古墳時代の終わり頃に造られた古墳です。その形は正方形をしていて、「方墳」と呼びます。墳丘面には、形のそろった葺石が整然と並べられていて、当時の古墳の姿を想像できます。これほどの古墳を造らせることのできる人物とは、一体どんな人だったのでしょうか。

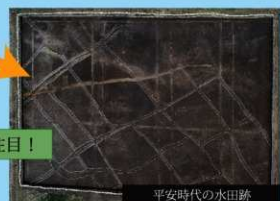
令和2年度のおもな発掘調査地一覧・位置図

No.	遺跡名	所在地	時代
①	推定上野国府跡	元総社町	平安
②	上細井中西部遺跡群No.3	上細井町	縄文・奈良・平安
③	元総社普海遺跡群	元総社町、総社町総社	古墳・奈良・平安
④	元総社北小学校遺跡	総社町総社	弥生・古墳・平安
⑤	荻窪倉兼Ⅲ遺跡	荻窪町	古墳・奈良・平安
⑥	上泉下中峯遺跡	上泉町	古墳・奈良・平安
⑦	田口滝ノ前遺跡	田口町	古墳・平安
⑧	朝倉上郷遺跡	朝倉町	平安
⑨	愛宕山古墳	総社町総社	古墳



古墳時代の水田跡

水田1区画の大きさに注目！



平安時代の水田跡

田口町でおこなった田口滝ノ前遺跡の調査では、1108年に噴火した浅間山の火山灰や軽石で埋まった平安時代の水田跡（写真右）と、その下に、榛名山の火山灰などで埋まった古墳時代の水田跡（写真左）が見つかりました。写真の白線が水田の畔で、古墳時代の水田は、とても小さく作られていることが分かります。古墳時代の水田が良好な状態で見つかることは、大変めずらしいです。